

令和5年度 第4回 南丹市市民参加と協働の推進委員会 議事録

日 時：令和5年12月18日（月）午前10時00分～12時00分

場 所：南丹市役所 1号庁舎 3階 防災会議室

出席者：〔委 員〕古北 真里委員長、大東 貢生副委員長、高橋 博樹委員、  
奥村 幸代委員、西田 香代子委員、和辻 理恵委員、  
平井 静男委員

〔事務局〕吉田主事、大坪主事、加藤主事

1 開会

事務局	<p>定刻になりましたので、ただ今から南丹市市民参加と協働の推進委員会を開会いたします。</p> <p>前回委員の皆さまから頂いた意見に対して、別紙次第のとおり事務局でまとめましたので、こちらの内容について議論いただきたいと思います。</p>
-----	---

2 議題 令和6年度南丹市まちづくり活動交付金 募集要項(案)について

資料：協議資料①「令和6年度南丹市まちづくり活動交付金 募集要項（案）」

事務局	<p>前回の話し合いの場では、まちづくり活動交付金において、新規1年目の団体からの申請件数が以前より減っているというご指摘がありました。その原因の一つとして募集要項のデザインが硬く新規の団体が手に取りにくい、特に表紙について文字がたくさんあり情報量が多すぎるといった意見をいただきました。</p> <p>そこで、事務局の自由な発想でデザイン案を作成してほしい旨がありましたので、親しみやすさを意識した表紙案を3種類用意しました。</p> <p>※各変更・追記点を説明</p>
委員	<p>徐々に内容が洗練されてきたように思います。ところで、交付率は変えられないのでしたっけ。</p>
事務局	<p>交付率を変えるためには募集要綱を変更する必要があるため、時間がかかります。ですので、今から来年度の交付率を変えるのは難しいです。</p>
委員	<p>前回の話し合いで、この交付金が始まってまだ3年たっていないので、交付率の変更はすぐには行わず様子を見るという話になったように記憶しています。</p>
委員	<p>それは承知しています。すぐに変更したいわけではなく、いつか変更する可能性があるのなら早めに議論がしておきたいです。自分としては、3年間を通して交付率が変わるのは申請者にとって分かりづらいと思います。</p>
委員	<p>交付率が変わる仕組みは、団体の自立を促す工夫ではなかったでしょうか。</p>
委員	<p>それも承知しています。そのうえで自分は交付率を10分の10にするのが良いと考えています。ただ、すぐには言わないので、今後時間をかけて議論したいです。</p>

委員	前回の会議で、交付額を変えるタイミングとして、令和7年度が候補に上がっていましたね。
委員	では、令和7年度に交付額変更の方針で、この委員会で案を練っていきたいです。令和6年度の募集要項案は、表紙にインパクトがあり良いですね。白黒印刷でも目立ちそうです。
委員	募集要項は白黒印刷なのでしょうか。
事務局	基本はカラー印刷しています。
委員	仮に白黒印刷する場合も、表紙だけはカラーにしてほしいですね。
委員	表紙だけでなく、募集要項の内容についても議論する予定でしょうか。
事務局	内容についてもご意見いただければと思います。今回出た意見を参考に修正した募集要項を、年明けの委員会にかけて議論できればと考えています。
委員	委員会だけではなく、まちづくりデザインセンターにも相談してほしいです。まちづくりデザインセンターの職員は、誰よりも深く募集要項を読み込んでいますので。
事務局	承知しました。
委員	対象事業に記載の地域の公共的な課題という言葉について、もう少し分かりやすく補足したほうがいいのではないのでしょうか。今年度のある申請団体と委員の間で、交付金が対象とする事業について認識のずれがあったように感じます。
委員	補足を入れると対象事業の幅が狭まってしまう恐れがあると考えます。対象事業を補足するのではなく、対象外にこの交付金に適さない事業を追記していくのがいいのではないのでしょうか。
委員	その団体は確か、申請書の書きぶりに問題があったように記憶しています。事業内容としては問題なかったのではないのでしょうか。
委員	申請書では、事業内容が事業の目的から離れすぎていました。また、事業を行って地域がどうなったかの説明が曖昧でした。
委員	その団体は、団体内でお金が回る仕組みになっていたことも問題だったと思います。それに関連してですが、対象経費の表の中で、外部委託費用の「外部」を削除されているのはどういった意図でしょうか。
事務局	専門的知識・技術を持った方が団体構成員の中におられた場合、その方個人への専門的な業務の委託費用は対象としております。 そのため、「外部」という表現と「団体内での直接実施が困難なものに限る」という表記を削除しております。
委員	話が戻るのですが、募集要項に事業の目的と内容を一致させてくださいと書くことはできませんか。まちづくりデザインセンターにも相談してほしいです。事業内容を見ても目的が見えてこない事業はこの交付金には適さないと感じます。

委員	目的をお題目で書いてしまって、目的と事業内容が一致しない申請はたまにありますね。
委員	言葉として募集要項に載せるのは難しそうな内容ですね。 9ページのプレゼン審査欄について、事務局より説明をお願いします。
事務局	はじめに、今年度に初めてプレゼン審査を導入しましたが、今年度の内容をふまえ、次年度以降も引き続き実施してよろしいか、ご意見をお願いいたします。 また、4・5年目の団体はプレゼン審査を必須とするべきという意見が前回出ておりましたので、必須とし、その旨も追記してよろしいでしょうか。
委員	※異議なし
委員	4・5年目の団体について、プレゼンによる「審査」を必須とするという意味合いよりも、3年間の活動の総括、今後の展望、4年目以降も引き続き補助が必要な理由等のお話をお聞きしたいという意味合いなので、今ある枠と別枠に記載すべきだと思います。
事務局	ありがとうございます。4・5年目の団体のプレゼンについては別枠に記載いたします。
委員	プレゼン審査の概要について、上部では20分程度としていますが、説明方法の持ち時間は15分となっております。 また、留意事項の「説明者は団体の代表者・代理人問いません」という表現に違和感を感じますので、「説明者は団体のどなたでもかまいません」としてはどうでしょうか。
事務局	ご意見ありがとうございます。時間については15分に統一し、留意事項の文を修正いたします。
委員	「地域の課題の解決」というフレーズが何度も使われていますが、「課題」というと「現在出来ていないこと」の印象が強く、「今あるものをより良くする」事業も対象になるとイメージしづらいと思います。表紙、1ページのはじめに、4ページの制度概要の冒頭の文章では「地域をより良くするための取組」というような表現に言い換えてはどうでしょうか。
委員	公共的に利用できる場・サービス等をまとめ「公共財」という表現があります。公共財の向上と創出という表現を使ってはどうでしょうか。
委員	確かに募集要項内で課題という言葉が使われすぎていると感じます。もう少し分かりやすい言葉に書き換えたほうが良いのではないのでしょうか。
委員	公共財とはどういった意味の言葉でしょうか。
委員	反対語は私財です。たとえば公共的な施設や道路のことです。簡単に言うとみんなが使えるものです。
委員	公共財の向上と創出よりも、公共財の創出と向上の方が流れがいいですね。
委員	どちらでも良いと思います。順番は事務局にお任せします。ちなみに公共財の解説は、特定の所有者がなく誰でも使える財、資産。排除性も競合性もない、となります。

委員	そう聞くと難しく感じます。資材とか人材とか具体的な説明のほうが分かりやすいです。
委員	具体例を挙げると、それ以外は当てはまらないと解釈される危険性があります。
委員	誰のものでもないより、みんなのもの、の方がしっくりきます。
委員	みんなという定義が複雑になりますね。たとえば市が所有する建物と県が所有する建物だと、みんなが指す範囲が変わってきます。
委員	誰のものではないと言われると、一般の人は自分から遠いものと感じるのではないのでしょうか。募集要項に使うかは検討が必要かと思います。
委員	まちづくりをする上で、公共財は知っておいてほしい言葉です。むしろ募集要項に使うことで、団体の能力向上に繋がると考えます。
委員	募集要項にはあえて公共財の説明は入れず、まちづくりデザインセンターに質問があれば随時対応していただくというのはいかがでしょうか。
委員	それが良いと思います。地域の公共的な課題に加えて、公共財の創出・向上を入れましょう。課題というどうしても、一般的な水準より下にあるものを上に持っていき、困りごとの解決をイメージしがちです。しかし、公共財の創出・向上という言葉を入れることによって、水準以上にあるものをもっと良くする事業も、交付金の対象と捉えてもらえるのではないのでしょうか。
委員	地域をより良くする取組という表現が一番分かりやすいですが、対象事業が広がりすぎる恐れがありますね。
委員	募集要項4ページの対象事業に地域をより良くする事業と書いて、その下の対象事業の説明に地域の公共的な課題の解決と、公共財の創出・向上を記載するのはどうでしょうか。
委員	掴みは分かりやすい言葉で、できるだけ多くの人に関心をもってもらって、考えている事業が対象かどうかは対象事業の説明を見て判断していただくということです。掴みを難しい言葉にすると、間口が狭くなってしまうので、この書き方が良いと思います。
委員	その流れで考えると、表紙の言葉も硬いですね。
委員	確かにそうですね。表紙は3つ案がありますがどれにしますか。
委員	案1がインパクトがありよいと思います。ただ、先ほど意見が出た通り吹き出し内の言葉が硬いので、分かりやすい言葉に変えてください。
事務局	承知しました。担当者で話し合いを行い、分かりやすい言葉に修正します。
委員	同じ考えで進めると、募集要項1ページの“はじめに”にも、課題という硬い表現が多いですね。冒頭の4行もやはり難しい言い回しで、とっつきやすさを重視するならば不要ではないのでしょうか。
委員	同意見です。冒頭4行を削り、以下の課題という言葉も柔らかい表現に変えて、親しみやすい文章にしましょう。
委員	柔らかい言葉ばかり並べると、対象外の応募が増えてしまう恐れがありませんか。

委員	<p>募集要項4ページで、対象となる事業を詳しく説明しているので、問題ないと思います。それよりも、間口を広げることで、新たな良い事業が発掘されるメリットの方が大きいように思います。やはり、新規事業が減少傾向にあるので、新しい団体に活用してほしいという気持ちが大きいです。</p> <p>話は変わりますが、表紙のまちづくりデザインセンターへの問い合わせ先に記載の「申請書ってどうかくの」の”かくの”は漢字にしているのでしょうか。それとも何か意図がありますか。</p>
事務局	意図はありません。漢字にします。
委員	実際にまちづくりデザインセンターを訪れる人たちは1人でいらっしゃるのでしょうか。
委員	1人で来られる場合もあれば、2～3人の複数で来られる場合があります。まちづくりデザインセンターとしては、相談したことを正しく団体に伝達するためにも、複数人での訪問を勧めています。
委員	4・5年目のプレゼン審査の日程を決める必要がありますね。プレゼンに来られない団体はどうなるのでしたっけ。
事務局	プレゼンの日程は募集要項が出た時点で決まっているので、プレゼン対応ができない団体は不交付ということにしています。
委員	事業が終わった後に提出する事業報告書について、これまで団体に報告書の修正を求めたことはありますか。
事務局	あります。たとえば、天候等で事業が実施できなかったのに変更届を出さずに事業報告を出された団体がいました。その団体に変更届の提出を求めたことがあります。実績報告もそれに準じて修正していただきました。
委員	募集要項についての議論は、ここまででよろしいでしょうか。
委員	※異議なし
委員	事務局のほうから確認しておきたいことはありますか。
事務局	プレゼン審査の日程を決めておきたいのですが、みなさんご都合いかがでしょうか。
委員	プレゼン審査は8月実施予定ですよ。先のことなのでまだ予定が分かりません。
委員	年度内にもう一度委員会があるので、その場で決めてはいかがでしょうか。
事務局	承知しました。次の委員会で日程調整をさせていただきます。
委員	※異議なし
委員	来年度はまちづくり活動交付金にいくら予算がつきそうですか。
事務局	まだ要求の段階ですが、継続団体に加えて新規団体を10件想定した予算を要求しています。
委員	今年度の予算額は360万円程度ですよ。
事務局	支出予定額は130万程度です。

委員	地域振興課の中で、申込を増やすために何か取組を始めようという流れにはならないのでしょうか。市民の立場で意見を言うと、まちづくり活動交付金が現状あまり使われていない状況なら、市がそこに予算をつけることに対して不満を感じます。
事務局	事務局としては、よりたくさんの団体に交付金を活用していただければ良いと考えています。
委員	良いだけではなく、募集を増やすために努力してほしいですし、事務局側の意気込みを感じさせてほしいです。今の応答だと、募集が減っていることに対して、なりゆきでいいやと考えているように感じました。この話題は、もっと深刻に捉えたほうがいいですよ。
委員	募集要項の案を見て、少なくとも自分は、応募を増やしたいという事務局側の意気込みを感じました。
委員	自分としては、まちづくりデザインセンターの職員ともっと話し合いの機会を設けてほしいと感じています。まちづくりデザインセンターを立ち上げたときには、週に1回は担当者が相談に来ていましたよ。まちづくりデザインセンターとの相談でもんだ意見を、委員会にかけている印象でした。今は月1回も来ていませんよね。それでは良い案も出ませんよ。
委員	どうして募集が減っているのかという分析も必要ですね。
委員	交付金を使ってどんな事業をしているのか、市民の方が知る機会が少ないというのも課題だと感じます。来年度は広報なんたんや市 SNSなどで、事業の様子を紹介してはいかがでしょうか。
事務局	一人でも多くの方に交付金について知ってもらうために、広報の方法は考えていきたいと思います。
委員	この話題はここまででよろしいでしょうか。
委員	※異議なし
事務局	いただいた意見を参考に、募集要項の案を修正し、来年度交付金の広報の仕方について検討します。次の委員会で再度、意見をいただければと思います。

### 3 その他

#### ①第二次南丹市総合振興計画策定時の市民参加のワークショップについて

資料：協議資料②「第2次総合振興計画 付録：市民が考えた南丹市のこれから」

協議資料③「第2次総合振興計画 南丹市の10年先の未来を見据えて

住民の「やってみたいこと」を集める6日間のワークショップ」

事務局	前回の話し合いの中で、若い世代の意見を聞くワークショップを実施する前に、同様のワークショップを総合振興計画策定時にすでに実施していたというご意見をいただきましたので、参考に当時の意見をまとめた資料を共有いたします。
委員	ここで出た意見はどのように活用されているのでしょうか。
事務局	直接の担当は企画財政課になります。確認したところ、ワークショップで出た意見を参考に計画やマップを作成したそうです。しかし、計画には1年ごとに達成度をチェックする旨の記載がありますが、実施されていないようです。ただ、市民意

	識調査という形で実態調査を行っていると聞きました。
委員	再度こういったワークショップを行うなら、計画やマップを作って終わりにならないよう、その後の施策に活かすところまで当初から想定して行わなければいけませんね。

## ②まちづくり活動交付金に関するアンケートについて

事務局	<p>同じく前回の話し合いにおいて、委員の皆様から、3年間交付金を活用し補助を終えた団体に、現在の活動状況や交付金制度を活用しての感想等を聞いてはどうかとの提案をいただきましたので、アンケート調査の実施を考えております。</p> <p>委員の皆様には先んじてメールで共有しておりますが、アンケートの内容についてなにか意見がございましたら、お願いいたします。</p>
委員	※この場で意見は出ませんでした
事務局	実施したアンケートの結果は、委員会で共有させていただきます。

## ③まちづくり活動交付金の実績一覧について

事務局	<p>どのような事業が対象になるか、事例集があると申請に繋がるのではという意見を委員の皆様からいただいておりますので、現在事務局で過去の申請団体の事業概要の一覧を作成しております。</p> <p>作成した事業概要一覧は市のホームページに掲載し、募集要項の見開き1ページ目にQRコードの添付を考えております。</p>
委員	事務局のみで作成するのではなく、申請時に市民団体からの相談を多数受け付けているまちづくりデザインセンターと共有いただき、現場が必要としている情報になるようお願いいたします。
事務局	ありがとうございます。まちづくりデザインセンターへ積極的に相談を持ちかけ、作成していくよう注意いたします。

## 4 閉会

事務局	<p>本日は、貴重な意見を頂戴いたしまして、ありがとうございました。本日のご意見を踏まえ、さらに市民活動が活発化するような取り組みを進めてまいりたいと思います。それでは、以上をもちまして、南丹市市民参加と協働の推進委員会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。</p>
-----	--